



オンライン
会議・商談

システムの
導入

IT設備の
導入

3密回避
対策

車通勤

ペーパー
レス

テレワーク

フレックス
の導入

新しい働き方に向け、社員の視点での改善へ

企業データ	本社・拠点	千葉県千葉市中央区今井2-10-2第2山一ビル
	業種	社会通信教育／他に分類されない専門サービス業
	従業員数	従業員：82名（男性：34名 女性：48名）
	資本金	500万円
	事業概要	通信制サポート校運営／放課後等デイサービス事業

テレワークを推奨した結果、社員が率先して効率化に取り組むようになりました



WEBを活用した効率化や情報発信

新型コロナウイルス感染拡大防止策を検討するにあたり、利用者や先生が必ずしも学校や教室へ来る必要が無いと考え、公共交通機関を利用する職員を中心に可能な限りテレワークに切り替えました。

それに伴い、学校側でカメラ付きPCの用意や、通信環境の整備を行う等、積極的な設備投資を行いました。また、独自でYouTubeチャンネルを設け、学校紹介やイベント情報を定期投稿したり、PRを兼ねたブログ発信をしたりするなど、SNSも積極的に活用しました。

壁 意識改革によりWEBを通して充実したコミュニケーション

WEB会議システムの導入当初は、face to faceの概念がこれまでと異なることから、コミュニケーションを取るのが難しかった。

WEB会議でも、気配りを徹底するなど、参加者が孤立しないようコミュニケーションを強化することで、壁を乗り越えることができた。

各自で動き始めた働き方への工夫

テレワーク中の職員は、生徒の授業や指導が難しいため、研修を中心に行うことで、職員のスキルアップを集中して行う時間を確保し、責任者候補の育成を目標に取り組みました。

その他、テレワークを通じて経営者、職員共に、これまで以上に就業時間に対する意識が高まり、時間内に効率的に業務を消化するよう働く様子が見受けられました。その結果、ノー残業デーの増加や、フレックスタイムの有効活用、有給休暇の取得など働き方にもプラスの効果が生じました。

さらに、テレワークの取組により意識改革が起こったことで、職員それぞれが知恵を出し合うようになりました。その一例として、これまで個々で担当していた業務を、チームで対応する案があり、実際に取組を開始したところ、一人の職員にかかっていた負荷を分散することができ、結果として、これまで以上に働きやすさを感じる職員が増えることとなりました。

さらなる効率化への方針

現状、テレワーク自体はすでに浸透しており、

「無駄な仕事をいかに削減するか」を検討する段階に入っています。今後はさらにWEBを活用して、時間を割かれがちな郵便や配送物、入学願書等にも対応していく予定です。

さらに、同社では今回意識改革による効率化に至ることができた経緯として、テレワークの推奨を行う以前から定期的を実施している、従業員研修やリーダー研修、定例会議等が影響していると考えています。これまでの開催で、“効率化”は検討事項として挙がっており、非効率な働き方を問題視する風潮が形成されていました。そのことが今回の意識改革や改善への行動につながったと考えています。よって、今後もこれらの研修会を継続的に実施することで、働き方に対する個々のモチベーションを維持・向上し、自ら最善策を考える等、主体性を持った行動を促す方針です。

職員に長く勤めてもらうためには、働く人の行動を主眼とした職場環境への改善が継続的に必要だと考えています。「良い会社」として認められ、社員・社会に必要とされる会社にするためには、その時代や環境にあった働き方を常に取り入れる柔軟性を持ち続ける必要があると考えており、今後も積極的な姿勢をみせていきたいです。

社員からの声

- ◆会議や研修がオンラインになったので移動時間がなく、仕事の効率が高くなりました。
- ◆フレックスタイム制を有効活用することで、仕事以外の時間を取りやすくなり、ワークライフバランスが実現出来るようになりました。

